

施工事例集

水辺

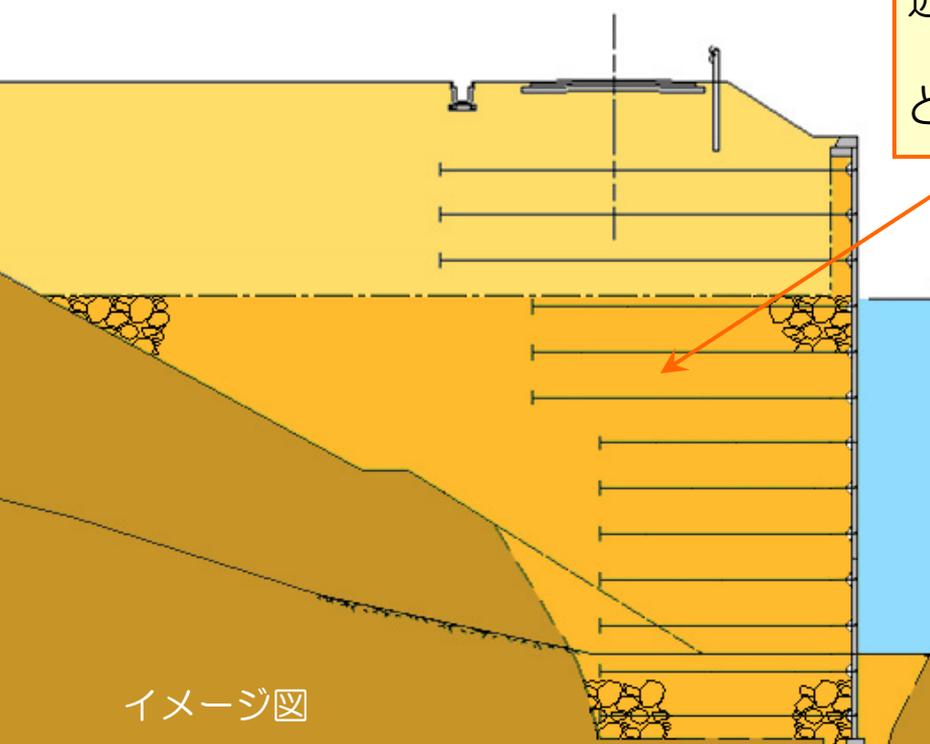


浸水後

浸水前

浸水予定の部分まで
透水性の良い盛土材料
($k=1.0 \times 10^{-2} \text{cm/sec}$ 以上)
として、**碎石や岩砕**を用いる。

壁の水面側と盛土側とで
水位差が生じないように
配慮が必要となる。



イメージ図



留意事項

- ✓ 流水・波浪等を伴わないこと。
- ✓ 浸水部分の盛土材料には碎石・岩砕が基本。
- ✓ 透水係数 $k=1.0 \times 10^{-2} \text{cm/sec}$ 以上の土質材料を使用する。
- ✓ 水位日変動量 $h_w=2\text{m}$ 以下。
- ✓ 粒度分布の規定は、なし。

(※摩擦系補強土壁は、“土と補強材の間に十分な摩擦を発生させるために粒度の良い材料を選定する。”『補強土擁壁の合理的な設計法に関する共同研究報告書』 P.268より)

※これらに適合しない場合は、別途検討が必要。

○公的機関資料での設計例

- 多数アンカー式補強土壁工法
設計・施工マニュアル第4版 p.179~181
＜平成26年8月・（一財）土木研究センター＞
- 補強土擁壁の合理的な設計法に関する
共同研究報告書 p.272~274
＜平成7年3月・（財）土木研究センター＞

